

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0873200349		
法人名	医療法人社団 正信会		
事業所名	グループホーム れんぎょう 東館		
所在地	〒319-0206 茨城県笠間市安居 3144-521		
自己評価作成日	平成30年5月15日	評価結果市町村受理日	平成 30年 9月 20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&ujyosyoCd=0873200349-00&PrefCd=08&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成30年7月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>各個人のそれぞれに持てる力を、十分生かせるように努めています。 季節を感じる事が出来る様に、季節に応じたちぎり絵や草花を楽しめる様にしています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、居間や居室の掃き出し窓から中庭の家庭菜園に出入りできる造りとなっており、緑を眺めながら自由に過ごせるような配慮がなされている。利用者は能力に応じた役割を担うことができ、張り合いを持つことで笑顔がみられる一方、職員も利用者笑顔で接するよう心がけ、理念の実践に努めている。管理者は職員の勉強会で、テーマに沿った新聞の切り抜き記事を用いるなど工夫を凝らし、職員の意欲向上への取り組みを行っている。職員の離職も少ない。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を見えるところに、ホールに掲示することで、共有でき、実践につながる事が出来る様に努めています。	利用者との触れ合いの中で、利用者職員が笑顔でいられる支援に取り組んでいる。利用者の力に応じた役割を担ってもらい、職員と一緒に作業する中で、利用者に見られるようにしている。問題が起こったときは、話し合いの場で理念をふり返り、理念に沿った解決ができるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流はありませんが、前の畑の持ち主から野菜などをいただく事があります。散歩時などに挨拶を交わす程度となっています。	利用者が単独で事業所外に出た場合などには、見守りなどの協力を得ている。季節の野菜や花のやり取りがある。小学生の職場体験の受け入れを行い、生徒とは手紙のやり取りをして交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	支援の方法などを地域の人々に向けての発信はありませんが、認知症の方への理解は進んでいると思います。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の場で、事業所報告をすると共に、今困っている事などに意見を頂いたりして、サービスの向上が出来る様に努めています。	委員からの意見で、夏の体調管理のために、こまめな水分摂取の勧めなどの提案があったことをうけ、配茶の回数を増やすことを実践し 体調管理を心がけている。参加した委員からの情報提供があり、地域の高齢者宅の訪問支援を行なっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への出席の依頼や、市に向く事で協力関係が出来る様に努めています。	市役所本庁の担当課窓口足を運び、情報交換を行なっている。生活保護受給者の担当ケースワーカーと細かいやり取りを行なっている。市の社会福祉協議会を通じて民生委員などの施設見学を受け入れるなど、協力体制を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしないケアに取り組んでいます。玄関の施錠はしていますが、現在徘徊者がいる事もあり、開錠は困難と考えております。	身体拘束排除に関する勉強会を年に数回行って、身体拘束に関する新聞の切り抜き記事等をテーマに話し合うなどしている。やむを得ず身体拘束を行う場合には、同意書やその他の関係書類を整備して実施しているが、玄関の施錠に関しての同意書を家族等から得るまでには至っていない。	玄関の施錠に関する同意書を書面で得ることを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉の暴力が無い様に、虐待が無い様にと日々の介護の中で努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会はありませんが、制度については理解しています。権利擁護を利用している方はいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用開始時に十分説明し、理解を得た上で利用開始としています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族来所時に近況報告をしながら、要望等をお聞きしています。お互いの信頼関係が持てる様にと努めています。	来所した家族等からはよく話を聴き、職員は利用者の様子を伝えるなどして家族等との信頼関係の構築に努めている。来所が難しい家族等には電話で意見を聴いている。家族等から出た意見に対しては、職員間で話し合い、できるだけ迅速に対応するようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会議の場において意見や要望を言える機会があります。困りごとは随時に伝えて改善を目指しています。	毎朝のミーティング時に意見を聴いている。必要に応じて管理者は代表者に伝えて、職員からの物品の購入についての意見などに応じている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務日数などや休暇の希望が言え、職員同士の相性なども配慮した勤務表となる様に配慮されています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会は設けられていませんが、研修開催の案内は事務所に掲示されています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流する機会は少ないですが、会議の場や病院の待合室などで、情報の交換をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始時に十分な聞き取りを行い、不安の無い生活が送れるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始時に家族の思いや、要望を聞き、信頼関係が築けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始時に今必要な事は何かをきいた上で支援をしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人に出来る事は見守りとして、共に暮らす者としての意識が持てる様に、一緒に作業をしたりしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出や衣類の補充等、随時に家族に依頼しています、また、困りごと家族と相談しながら決めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の依頼があれば随時に支援していません。知人の方が面会時には、気兼ねなくゆっくり過ごす事が出来る様に配慮しています。	入所時にアセスメントし、生活歴や馴染みの関係について把握し、細かく記録して共有している。職員は、利用者の友人や仲間が訪ねてくることへの支援や、家族と墓参りや外出することへの継続支援を行っている	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が助け合う事が出来る様な支援に努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの終了は死亡が多いため、退所後の支援はありません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴や生活習慣等の情報から、本人の思いを把握するようにしています。	利用者の思いや意向は、普段の会話や接しているときに注意して汲み取るようにし、新たに分かったことは支援経過に記録して、ケアプランに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの聞き取りやサマリーなどから、今までの暮らしの把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや個人の記録などから、日々の生活の様子を把握するように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議の中で、本人や家族の思いに添えるような計画となる様に努めています。	家族等や利用者の意向を基に、必要であれば医師の意見を取り入れて作成している。3ヶ月ごとにモニタリングを行い、基本1年で見直しを行っているが、利用者の状況等に変化があれば、随時見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りなどで、日々の暮らしの中での気づきなどは随時話っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	随時に家族と相談しながら支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアさんの依頼はしていますが、特に地域資源の利用はありません。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望に応じて、かかりつけ医を決めています。協力病院以外の受診には、家族の送迎を依頼しています。	協力医療機関への受診が月2回あり、これまでのかかりつけ医への受診も可能となっている。協力医療機関以外への受診は、基本的に家族等が付き添うこととなっており、利用者の状態を書面で渡し、医師に伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	病院や看護師とはいつでも連絡が取れるようになっています。健康不安については随時に看護師に相談しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	サマリーなどにより情報を交換しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りはしていませんが、要望があればできるだけ、ホームで過ごす事が出来る様に援助はしています。	看取りは協力医療機関で行う方針であることを説明しているが、家族等の気持ちの変化や希望にはなるべく沿えるよう支援している。職員は重度化に向けて、外部研修に参加する他、随時看護師である管理者から指導を受けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習は受けております。応急手当は随時に看護師に聞いています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行い、隣設する施設との協力体制は出来ています。	避難訓練を年2回以上行っているが、火災以外を想定した訓練を行うまでには至っていない。訓練の記録は残されているが、反省会を行い、課題について話し合うまでには至っていない。	夜間想定を含む避難訓練を行うとともに、反省会を通じて得られた課題を、次回の訓練に活かすことを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各個人に応じた言葉使いをするようにしています。また、プライドやプライバシーが保てる様に努めています。	入社時職員は、守秘義務に関する誓約書に捺印している。管理者が職員に、言葉遣いに気をつけるよう日頃から指導している。個人情報に関する書類は適切に管理されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	問いかけるような声掛けで、自己決定が出来る様に支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各個人のペースを大切にしています、随時に如何したいのかを聞くようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自室にヘアブラシを置いたり、声掛けをして身だしなみが整えられるように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の力量に応じた調理や盛り付けを行い、職員も一緒にテーブルを囲んでいます。好き嫌いにも配慮し、代わりの食材を準備しています。	同一法人の管理栄養士が作成した献立に基づいた食材が配送され、事業所で調理している。利用者は、下膳等、能力に応じた手伝いをしている。毎月のイベントごとに、季節の行事食を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食事の摂取量を記録して、一人ひとりの状態の把握に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行えるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄が出来る様に、定時にトイレの声掛けや誘導を行っています。夜間、ポータブルトイレを使用している人も居ます。	定時の声掛け誘導で、トイレでの排泄ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の摂取や運動を勧める事で、便秘にならない様に支援をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間と曜日は決められていますが、各個人がユックリと楽しんで入浴出来る様に努めています、ゆず湯や菖蒲湯を楽しんでいただく事も有ります。	入浴は基本週2回、午前中としているが、利用者の意向に沿っていつでも入れるように支援している。季節のゆず湯などを楽しむとともに、肌の弱い利用者には医療機関から出された竹酢液の湯を使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は良く入眠出来る様に、屋内散歩の勧めや居眠りなどが無い様に支援をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	副作用については職員が共有して、誤薬の無い様に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自身に出来る事はやっていただき、役割となる様に支援しています。カラオケは楽しみの一つとなっています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出は無いですが、行きたいところがある方は、家族に依頼しています。外来受診時にドライブを楽しむ事はあります。	近隣へ散歩に出かけ、季節を感じながら外気浴を楽しんでいる。受診の際に、ドライブを兼ねて景色を眺めるなどしている。毎月のように、利用者の希望に合わせた外出計画が立てられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理されている方はおりません。小銭を持っている方がいて、事務所に預かっていますが、本人は忘れているようです。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	連絡を取りたいという方がいれば、随時に対応しています、公衆電話はありますが自身でかける方はおりません。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ってみたり、季節の野菜を育てています、テレビの音や採光などに配慮して、心地よく過ごす事が出来る様に支援しています。	こまめに温度管理がされた、過ごし易い快適な空間になっている。玄関には観葉植物や利用者の手作り作品が置かれ、暖かい雰囲気である。動物が飼育されており、利用者の癒しとなっているとともに、自家菜園での野菜作りや花の栽培を楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各個人が好きところで過ごす事が出来る様に支援すると共に、他者からの視線に嫌な思いをすることが無い様に工夫もしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室は思い思いに使用できるように支援しています、使い慣れた物を持ち込んでいる方もおり、家族にも使い慣れた物を持ってきていただけるようお願いしています。	居室にはエアコンやベッド、洗面台などが備え付けられている。利用者や家族等には、好みのものや使い慣れた物を持ち込んでもらえるよう、伝えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置や段差をなくすこと、目印を置く事で自立した生活が送れるように支援しています。		

(別紙4(2))

目標達成計画

事業所名 グループホーム れんぎょう

作成日 平成30年 9月 21日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	6	玄関の施錠について家族からの同意が書面で得られていない	玄関の施錠について家族から同意を書面で得る	来所時に説明 書面で同意を得てゆく様にする 来所困難なところは郵送にて同意を得てゆく様にする	3ヶ月
2	35	災害や 夜間想定を含む避難訓練の反省・課題が次回の訓練時に活かされていない	訓練時の反省会での課題が 次回の訓練時に活かされるようになる	災害や夜間想定を含む避難訓練時に 前回の反省点や課題が生かされるように取り組んでゆく (11月に訓練予定)	6ヶ月
3					ヶ月
4					
5					ヶ月

注1) 項目番号の欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。